「マーケットの浅読み・深読み」

発行・編集：FXニュースレター　　執筆担当：斎藤登美夫

▼▲▼

◇◆◇　No.0448　◇◆◇　　17/09/06

【　8 月相場は今年最小変動、9 月は「反動」に期待　】

経験則の観点から「円高有利」と言われる 8 月相場は、今年も円高有利で終了した。また、8 月相場は「値幅そのものはさほど大きくならない」ーーとされるが、月間変動幅はわずか 2.78 円で今年の最小変動を記録している。
つまり、過去の経験則がピタリと的中した先 8 月に続く、足もと 9 月相場はいったいどんな値動きをたどるのだろうか。詳細は後述するが、過去の 9 月相場は「ほかの月に比べて大きな値幅が観測されることが多い」ーーだけに、市場参加者のひとりとしては、小動きに留まった先月の反動を是非とも期待したい。

◎材料的には気になる要因目白押し、過去の 9 月も「大事件」多い

過去の経験則を参考に、まずは 1990 年以降過去 27 年間の 9 月相場の勝敗表を調べてみると、13 勝 14 敗でほぼ互角の結果となっている。方向性と言うことでは五分の内容だが、9 月相場には別の大きな特徴が見られている。それが「ほかの月に比べて大きな値幅が観測される」ーーと言うことだ。

「月間を通して大きく動く」という 9 月相場の典型例は月間に 11.15 円動いた（年間 3 位の大変動、以下同）1998 年のケースだろうが、そのほかでも 1999 年は 8.20 円（同 4 位）、2002 年の 7.41 円（同 4 位）、2003 年の 7.63 円（同 1 位）、2005 年の 4.94 円（同 2 位）、2014 年の 5.76 円（同 4 位）ーーなどといったように枚挙に暇がない。
インターバンクディーラーなどのあいだでは良く知られている話として、「ハリケーンシーズンの為替相場は荒れ易い」と言われているが、経験則的にもそれはある程度裏付けられると言えそうだ。

いずれにしても、先日終了した 8 月相場が「今年最小変動」を記録したことの反動もあり、足もとの 9 月相場について経験則どおりの「大変動」を期待する市場参加者は決して筆者だけではないと思う。
幸か不幸か、9 月の声を聞いても、まだそれほど大きな動意は観測されていないが、材料的には気になる要因が少なくない。思いつくまま順不同で指摘をするだけでも、9 日の独立記念日がXデーとされる「北朝鮮情勢」、CNBCテレビに出演したムニューチン米財務長官が「期限は 9 月 29 日と指摘した米債務上限引き上げ問題」、9 月 1-5 日に 2 回目の会合が実施されたが進展は乏しく、今後も 9 月後半にはカナダ、10 月は米国で相次いで会合が開催される見通しの「北米自由貿易協定（NAFTA）交渉の行方」ーーなどは相場の波乱要因となりかねないだろう。

なお、為替の動きは一旦脇に置き、過去の 9 月をニュースの視点でみてみると、何故か金融関係の大事件の起こりやすいことが知られている。実際に幾つか例を挙げると、「プラザ合意（1985 年）」を筆頭に、「いわゆるブラック・フライデーが起こる（1986 年）」「英ポンドと伊リラがERMと呼ばれた当時の欧州通貨のバンド制から離脱（1992 年）」「大手ヘッジファンドLTCMの巨額損失発覚（1998 年）」「リーマンブラザーズ破たん（2008 年）」ーーなどとなる。
また、金融に直接は関係ない大事件、それも紛争や戦争に関するものも少なくない。こちらも実例を挙げれば、古くは「関ヶ原の戦い（1600 年）」や「清英でアヘン戦争（1839 年）」「マッキンレー米大統領狙撃事件（1901 年）」「日露戦争終結（1905 年）」「第二次世界大戦はじまる（1939 年）」ーーなど。比較的最近では「イラン・イラクが全面戦争へ（1980 年）」「米国同時多発テロ（2001 年）」が、やはり 9 月に起こっている。

もちろん、こうした事象は毎年確実に起こると言うわけではない。しかし、先の材料面と一部重複するようなところもあるが、今年は世界情勢においてキナ臭いものが多く、事実すでに今月 3 日、「北朝鮮が 6 回目の核実験を敢行」している。紛争や戦争などが起こってほしいと願っているわけではないものの、リスク要因として何が起こっても不思議ではないと考えておく必要がある気もしている。（了）

▼▲▼

当レターは、情報提供のみを目的としたものです。内容に関して正確であるよう注意を払っておりますが、その正確性を保証することはできません。投資や運用にあたっての最終的な判断は、あくまで読者自身の責任と判断によって、ご利用いただくようお願い申し上げます。また、本稿の無断転載・転送もご遠慮ください。
なお、本稿に関する問い合わせは『FXニュースレター』までお願い致します。

◆◇◆　Copyright　(C)　fx-newsletter limited　company All Rights Reserved　◆◇◆